

本日金子さんから「ヤセウツボ」の写真を送っていただきましたが、その前に何かでヤセウツボの名前をみて写真をネットからPCに取り込んでいました。「オニノヤガラ」によく似ているとの印象からの行動でした。偶然のことですが・・・。

ヤセウツボはハマウツボ科、オニノヤガラはラン科で分類系統が異なりますが外観は似ています。いずれも葉緑素を持たないところも似ています。気になったので、関連事項を整理してみました。

1. **ハマウツボ科**にはナンバンキセル、ハマウツボ、コゴメグサ、コシオガマ、ヤセウツボなどが含まれる。殆どが寄生植物で、葉が退化してうろこ状の痕跡になっているものが多い。(コシオガマには葉がある。)

2. **ハマウツボ**の宿主はキク科ヨモギ属の根に寄生する。  
ハマウツボの名前はシソ科のウツボグサの花に似ているところから命名された。  
葉緑素を持たない。  
茎は褐色で直立する。  
葉は退化（枯れた葉のように見える）  
花期は5-7月



ハマウツボ

3. **コシオガマ**はA表観察アイテムとしておなじみである。(月曜班フィールド)  
かつてはゴマノハグサ科に入っていた。  
半寄生植物である。葉は対生  
花期は9-10月

4. **ヤセウツボ**は帰化植物（南ヨーロッパ原産）  
寄生植物であるため、葉は鱗片状に退化している。  
寄生主はマメ科、セリ科、キク科などで、寄生根で養分を吸収する。  
花期は4-6月で唇形花をつける。(黄褐色、紫、赤褐色など)



ヤセウツボ

5. **オニノヤガラ**  
**ラン科**  
花期は6-7月

腐生植物でナラタケ菌と共生する腐生ランの一つである。  
2015年6月1日に火曜班のヲガマ田フィールドで突然出現したが（開花は6月9日）その後は一回も姿を見せていない。  
ラン科の間では**ツチアケビ**も無葉緑植物であるが、菌の恩恵を受けている。  
オニノヤガラの花は青っぽいものと白っぽいものがあるが、ヲガマ田では後者であったと記憶している。  
命名の由来は茎が直立した様子を鬼の矢幹（やがら）に見立てたことから。  
褐色の茎にテープを巻いたような節が2-3か所にできる。



オニノヤガラ



ツチアケビの花



コシオガマ

以上